

図15: 本計画で扱う街路空間の定義

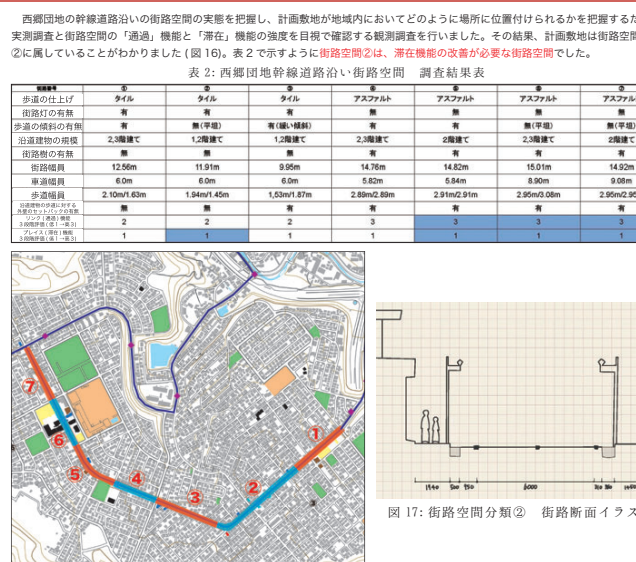


図16: 西郷団地幹線道路沿い街路空間7分類図

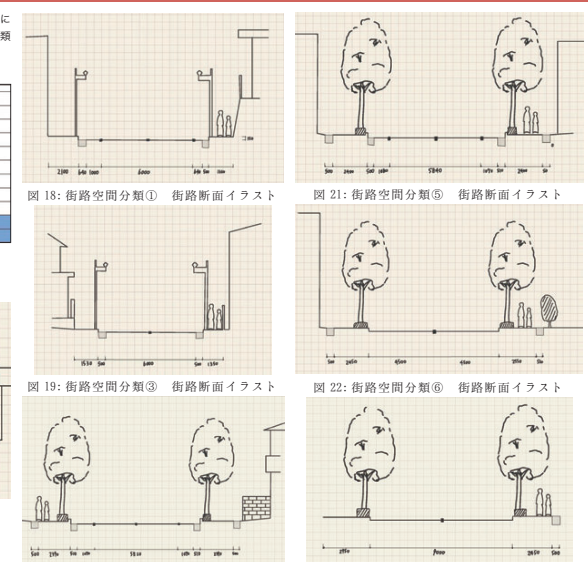


図18: 街路空間分類① 街路断面イラスト
図19: 街路空間分類③ 街路断面イラスト
図20: 街路空間分類④ 街路断面イラスト
図21: 街路空間分類⑤ 街路断面イラスト
図22: 街路空間分類⑥ 街路断面イラスト
図23: 街路空間分類⑦ 街路断面イラスト



図24: 通学路沿いの擁壁上の土地にある公園
図25: 歩道に座って会話する中学生
図26: 狭い歩道を複数人で帰る小学生達
図27: 各宅地の擁壁に囲まれた街路空間



図28: 第1回目ワークショップの様子
図29: 第2回目ワークショップの様子
図30: 第2回目ワークショップの様子
図31: 第3回目ワークショップの様子
図32: 実測調査の様子
図33: 最終ワークショップの様子

住民参加ワークショップの過程 ... 街路空間（広域的視点）から建築計画（狭域的視点）を横断して

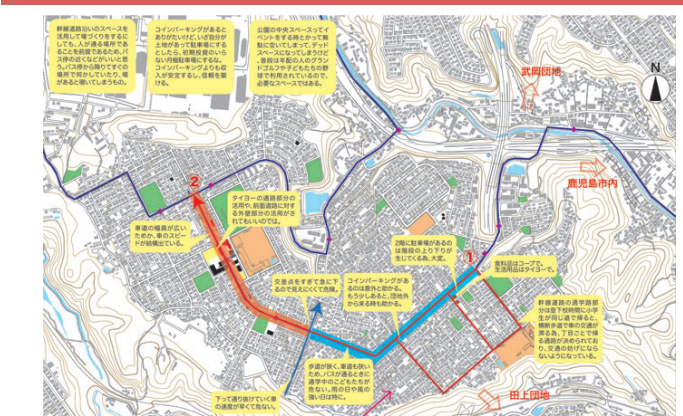


図36: 第2回目ワークショップ 提案した3パターンの模型

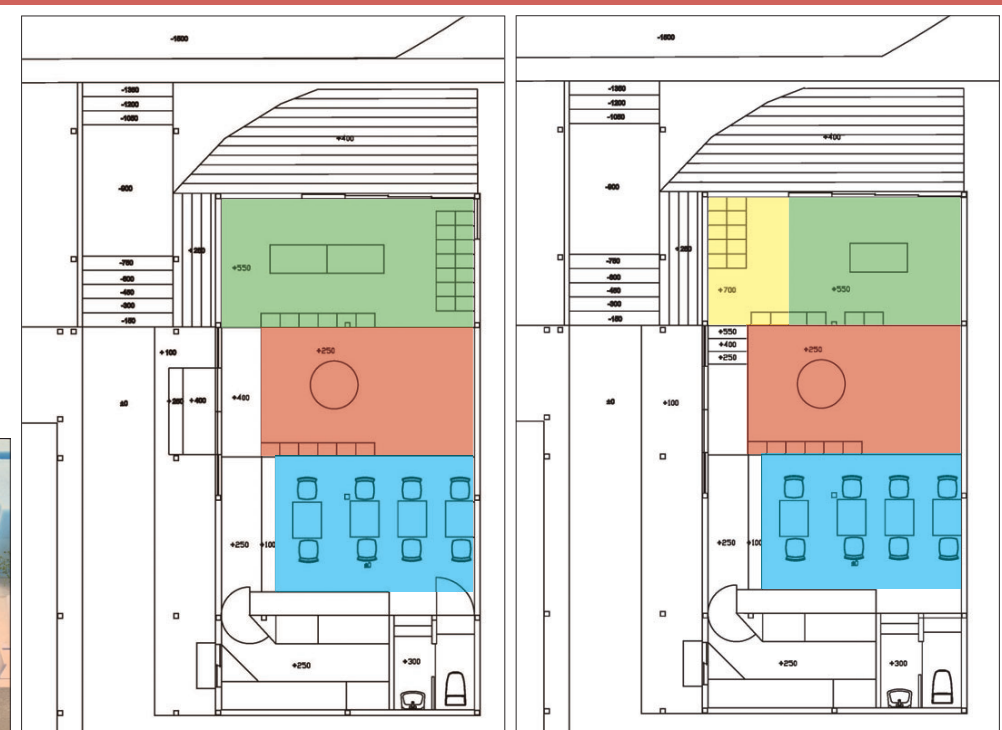


図40: 第3回目ワークショップ パターン① 3段構成平面図 1/80
図41: 第3回目ワークショップ パターン② 4段構成平面図 1/80

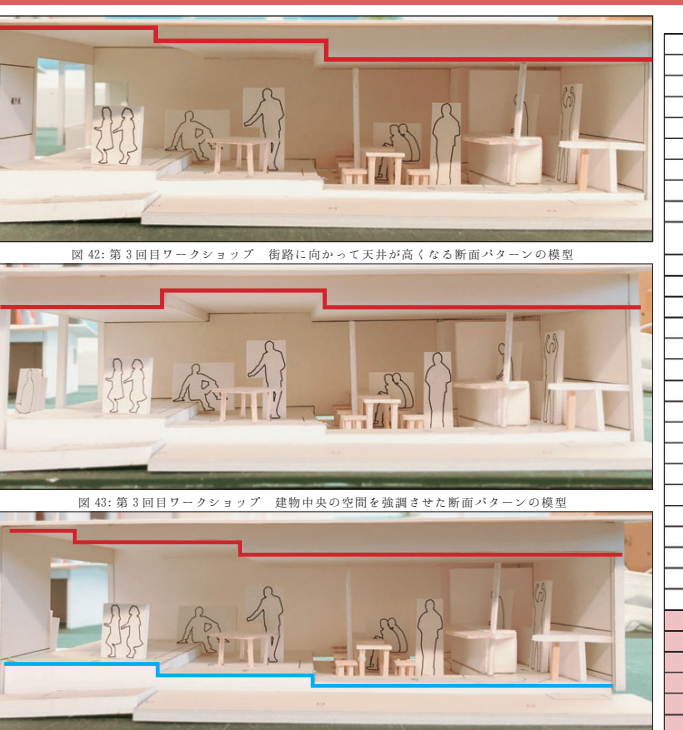


図42: 第3回目ワークショップ 街路に向かって天井が高くなる断面パターンの模型
図43: 第3回目ワークショップ 建物中央の空間を強調させた断面パターンの模型
図44: 第3回目ワークショップ 床と天井の高さの切り替え位置をずらした断面パターンの模型

表3: 第3回目ワークショップ終了後の建築形態条件項目更新表

形態の境界条件項目/案	Vol.1①(典型)	Vol.1②(分散型)	Vol.1③(連続型)	Vol.2①	Vol.2②
容積率200%	○	○	○	○	○
建蔽率60%	○	○	○	○	○
構造(軽量鉄骨造)	○	○	○	○	○
減築・増築なし	○	○	○	○	○
キッチン	○	○	○	○	○
屋外テラス	○	○	○	○	○
アサガオ	○	○	○	○	○
中が見えるファサード	○	○	○	○	○
利用者が空間を設えられる自由度の高い平面プラン	○	○	○	○	○
視線を通す隅の開口	○	○	○	○	○
対角線上の視線の抜け	○	○	○	○	○
小上がり	○	○	○	○	○
居場所の分散	○	○	○	○	○
内外の連続性	○	○	○	○	○
屋外での居場所づくり	○	○	○	○	○
茫洋の建物・敷地との繋がり	○	○	○	○	○
空間を仕切る設え	○	○	○	○	○
営業許可の取れるキッチン	○	○	○	○	○
屋外倉庫	○	○	○	○	○
宅地と街路の境界デザイン	○	○	○	○	○
採光	○	○	○	○	○
通風	○	○	○	○	○
西日対策	○	○	○	○	○
1500mmのレベル差	○	○	○	○	○
開閉の設え	○	○	○	○	○
子ども寸法	○	○	○	○	○
仕上げのテクスチャ	○	○	○	○	○
動線計画	○	○	○	○	○
照明計画	○	○	○	○	○
階段・段差のデザイン	○	○	○	○	○
マイノリティデザイン	○	○	○	○	○
掃除のしやすさ	○	○	○	○	○
繋げる擁壁のデザイン	○	○	○	○	○

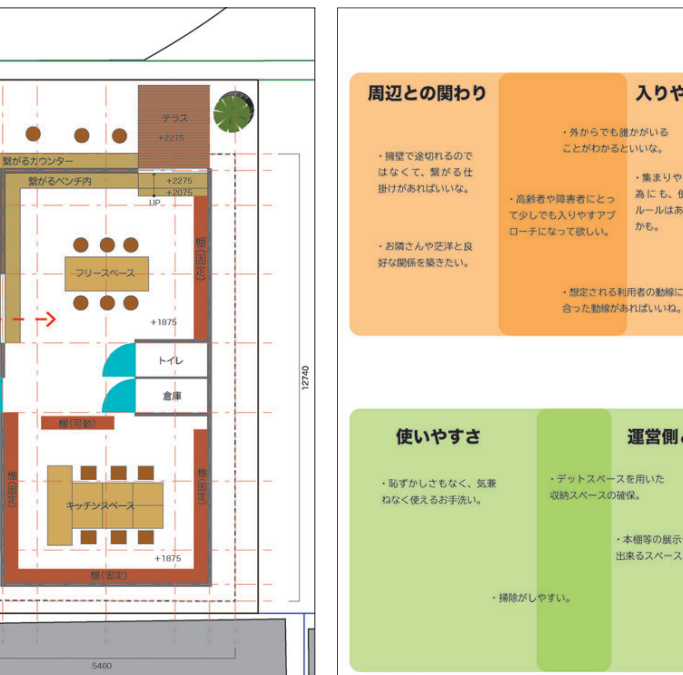
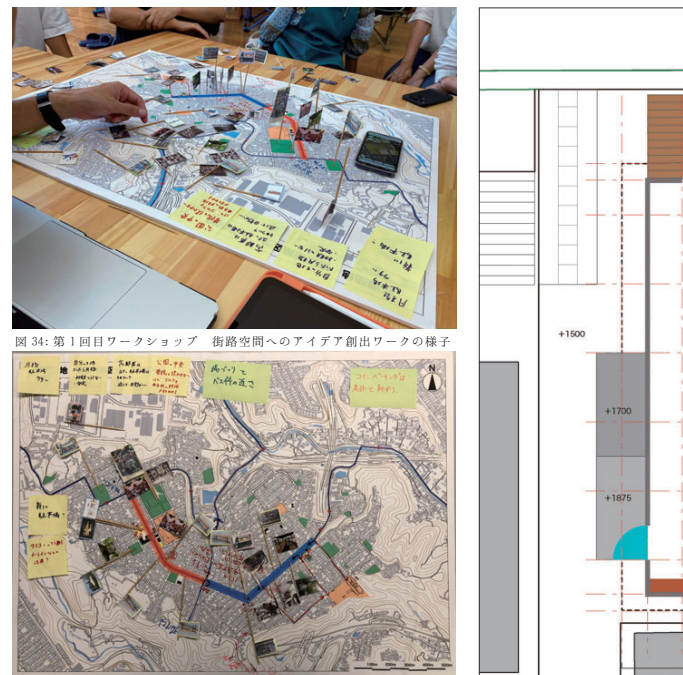
図45: 第3回目ワークショップ終了後の建築形態条件項目更新表

1回目 2022/8/27
第1回目は、前述した街路空間の調査内容を発表しました。その後、発表した調査内容を起点に参加者と一緒に、街路空間での関わりは何か、「誰にとって、どこに、どのような」空間があるか、また、その空間で「どのようなアクティビティが想定されるか」といった視点を提示した上で地図に示していくワークを行いました(図34)。

2回目 2022/9/23
第2回目は、参加者の拠点施設に対するイメージを膨らませ、広く議論が行われることを目的に、1回目に頂いた意見を元に荒洋のハナレの改修計画を以下に示す3パターン用意しました。

3回目 2022/11/23
第3回目は、第2回目に頂いた意見を反映させた、以下に示す2つの平面パターン(図40,41)と3つの断面パターン(図42,43,44)を組み合わせた提案を用意しました。

4回目 2022/12/18
第4回目は、改修計画を行う上で必須であった既存建物の図面(図6)を用意するために建物の持ち主の許可を頂き実測調査を行いました(図32)。実測調査当日は、県の住宅センターの方にも足を運んで頂き、今後活用していく建物を見て頂きました。また、実測調査後は、せごだん同様に公園を活用したイベントを開催していたため、建物の持ち主の方とイベントに足を運び、せごだんメンバーの方への紹介を行い、今後の関係性を築くためのきっかけ作りを行いました(図10)。



居場所として求める要素

周辺との関わり	入りやすさ	屋外空間	屋内空間	居心地に関して
・眺望で遠く眺めるのではなく、繋がる仕掛けがあればいい。 ・お隣さんや近所と良好な関係を築きたい。	・外からも誰かがいることがわかるといい。 ・集まりやすくなるように、集まるためのルールはあるといいかも。 ・高齢者や障害者にとって少しでも入りやすさやローチェになって欲しい。 ・想定される利用者の動線に合った動線があればいい。	・誰でも入ってきやすいことがわかるといい。 ・屋外に気軽に立ち寄って、居場所があるといい。 ・屋外空間でも人の居場所が欲しい。 ・誰かと関わることが生み出される仕掛けがあると良い。 ・階段などの段差でも居場所になるような仕掛けが欲しい。	・各個人の状態で居場所を選ばれるように多様な居場所が欲しい。 ・子どもが大人を連れてくるような、子どもが来ない場所であること。 ・子ども達が遊べる小上がりやフロア空間。 ・誰かと関わることが生み出される仕掛けがあると良い。 ・階段などの段差でも居場所になるような仕掛けが欲しい。	・靴を脱げる。 ・屋内からの屋外へ抜ける視線の先の風景が欲しい。 ・椅子座だけじゃなくても床座もできるように。 ・1人でも夜事が出来たり、軽く飲みながらおしゃべりできるカウンターが欲しい。 ・赤ちゃんを連れて来れる。 ・室内空間の明るさが欲しい。

機能として求める要素

使いやすさ	運営側として	場所として	親として	子どもとして	個人として
・動きやすさもなく、気兼ねなく使えるお手洗い。 ・掃除がしやすい。	・ネットスペースを用いた収納スペースの確保。 ・本棚等の展示や本の収納が出来るスペース。 ・小中学生が自下校中に気軽に立ち寄って休める場所が欲しい。	・時間帯によって利用する主体が変化するに合わせたような設え。 ・小さなおもちゃも出せるような設え。 ・シェアキッチンだけでなく、小さな教室やレッスンなどのシェアスペースとしても使えるような多様なシェアができる設え。	・子どもを見ながら料理ができる。 ・おむつ替えができる。 ・隠れられそう。 ・体が大きく動かせる。	・走り回れる。 ・隠れられそう。 ・体が大きく動かせる。	・ネット環境があって作業ができる。 ・人が近くにいるとしても、身体的にも人と距離を取ることができる。

図45: 第5回目(最終)ワークショップ 交流拠点施設に対する住民が求める要素分類図